

弾劾告 長駅千葉 林監を労働者

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

不法不当な攻撃は絶対許さない

6月3日、通対業務等で運転職場から各駅に出勤に出た83名の仲間が現場に配属された。当局は、この83名の仲間に対し、「名札を付けなければ仕事をさせず、職場に帰っても乗務させない」などと恫喝し、「理屈抜きで言うことを聞け」という攻撃に出てきた。とりわけ、千葉駅長・江口は、出勤者を監禁まがいに一室に押しこめ、見張りをたて屈服を迫るといふ許しがたい暴挙に出てきた。われわれは、こんな不法・不当な攻撃を絶対に許さない。

マル生労務政策強行攻撃

駅への「出勤」とは、千葉当局の「余剰人員活用策」の中心施策として、「要員活用と増収を目的」として出されてきたものである。

動労千葉は、この提案自体が、無能無策経営の破綻を一方的に国鉄労働者への犠牲を強要する形でのりきろうとするものであるという攻撃の本質を踏まえつつも、諸情勢を見極め「全員で受けたたつ」という決意をもって取り組んできたところである。

学園教育、実習、現場配置という過程を労使確認に基づき実施してきたにもかかわらず、千葉当局は、この機に乗じて一方的なマル生的労務政策を強行せんとし、千葉駅長・江口は「上ばかり見て」問答無用で労使確認や職場慣行を踏みにじろうとしているのである。

横行する「ゴマスリ」「告げ口」「スパイ行為」

今日、国鉄当局は、支配体制の側にたった経済原理すら投げ捨て職場の作業実態や業務の性格、労働者の心理などは一顧だにせず、ウルトラ右翼的精神論のみを優先させ、「人間として口をきくことは許さない」ロボットのようにながらせる「労務政策がまかり通っている」。

本社・中枢のこのような宗教運動のような姿勢を受けて、地方局や生産現場の職制の中に、「労働基準法などは守らなくても」「実績」だけあげればよい」「実績」とは労務政策である」といふん困気が醸成され、「業務」や「作業安全」などを（当局の立場で）まじめに考える者が沈黙し、ゴマスリ、告げ口、スパイ行為などをもって「自分の仕事」であるかのようにふるまう者が「ハバをきかしている」状況が徐々に拡大されてきている。

攻撃の尖兵・千葉駅長

千葉駅長・江口は、まさに、この理不尽な攻撃の先頭にたっている。

出勤で駅に着任した動力車乗務員と運転検修掛に対し「働かせてやるんだから文句を言うな」的態度で極めて高圧的「訓辞」を行わんとし、質問され論理的に破産すると「誰に向って口をきいているんだ」「私は駅長だぞ」などと口を荒げ、それうすれば道理があるうがなかるうが労働者は屈服するものと思いきや、こんていたことが一笑に付されるや「局へ行つて総務部長を呼んでくるぞ」などとわめく。

あるいは「俺は本社の秘書課にいたんだ。偉い人を知っているんだ。いつでも本社へ通報するルートがあるんだ」と公言する。

千葉駅長・江口とはこのような人物である。当局は「駅長」や「総務部長」や「本社」と言えば、何んでも言うことを聞くと思っているのか。「なめるんじゃない！」

83名の仲間が怒り心頭に発するのは当然である。

デッチ上げ策動を許すな！

6月10日以降、千葉駅では働く意志のある出勤者を講習室に押しこめ、公安官や職制を出入口に配置し、終日監視し、トイレに行くときもチェックするというタコ部屋まがいのことをやっている。しかも、詰所のカベの古いシミを「出勤者」がケトパンタなどとデッチ上げ、局に報告して点数かせぎをしようとしているのである。

生身の労働者を踏み台にして、自分の「出世」や保身に汲々としている管理者こそ、国鉄から出て行けばいいのだ。

われわれは、自らの責任でことに当らうとせず「何でも」「上」に報告し、「上」の指示なら労働者が死んでも心が痛まない」ようなカミカゼ的労務政策の犠牲になることは断固拒否して闘う。

（裏面へつづく）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！